

山行報告

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 平尾

山名	朝日連峰縦走	山行名	例会
ルート	登山口～大鳥池～オツボ峰～以東岳～以東小屋～狐穴小屋～寒江山～竜門小屋～竜門山～西朝日岳～大朝日小屋～大朝日岳～大朝日小屋～小朝日岳～鳥原山～朝日鉱泉		
山行日	2024年10月10日(木)～14(月)	天候	2日目一時雨のち晴れ、他は快晴
参加者	CL 平尾、SL 土岐、松嶋、森本、藪/5名		

ルート概略図



コースタイム

地名		時:分	地名		時:分
大鳥登山口	着	6:05	大朝日小屋	着	13:30
	発	6:08		発	15:20
大鳥小屋	着	9:24	大朝日岳	着	15:35
	発	9:44		発	15:51
以東岳	着	13:41	大朝日小屋	着	15:58
	発	13:57		発	6:05
以東小屋	着	14:25	小朝日岳	着	7:40
	発	5:30		発	8:08
寒江山	着	9:00	鳥原山	着	9:29
	発	9:19		発	9:29
西朝日岳	着	11:40	朝日鉱泉	着	12:58
	発	11:55			

東北の紅葉を目的にこの時期を選んだ。登山口までのバスが8月で終わり、朝日鉱泉方面が9・10月の連休のみ運行だったのでこの日程となった。各参加者に都合があり、現地集合・解散とした(車の回送は可能)。1日目:大鳥の旅館に前泊。2日目:登山口まで歩行3時間のところ宿の車で送ってもらう。大鳥池で直登コースとの分岐をオツボ峰コースへ行く。急登の途中でガスがかかり予報に反して小雨が降り出すが、稜線にでると雨は止み青空に日が射しだす。ミネカエデが紅葉し草紅葉と相まって素晴らしい。緩やかな稜線歩きで周りの山々をみてすすむ。オツボ峰で昼食。以東岳まで右側の眼下には大鳥池が熊のような全姿を表す。山頂で写真を撮り、避難小屋の混雑が心配されたので以東小屋へ急ぐ。満員。3日目:以東岳に登り返しご来光を見る。同行程で行動中の乙訓労山小川さんの200名山達成を祝い記念写真を一緒に撮る。北西には鳥海山と月山の姿がくっきり見え、東にはこれから歩く稜線が広がっている。寒江山の前後のアップダウンを越え、狐穴小屋へ、水が豊富。途中ブロッケンに出会う。竜門小屋を過ぎ、竜門山を越える。前方には大朝日岳のピラミダルな姿が待っている。西朝日岳を下って中岳の山腹を巻くと、前方に大朝日岳、その下に大朝日小屋が見える。金玉水を汲んでから小屋へ向かう。昼過ぎにすでに満員、2階にシュラフで場所を確保し荷物を置いて大朝日岳山頂へ。360度の展望、南に飯豊連峰、磐梯山、吾妻連峰の山々が見える。小屋からの夕景で佐渡ヶ島が見えた。3日目:小屋の前でご来光を見る。朝日鉱泉に向かい3つあるコースのうち鳥原山コースに行く。小朝日岳への急登を終え振り返ると大朝日岳が見えた。鳥原山をすぎ湿原をとおり。ダケカンバや草紅葉の紅黄葉が美しい。木道で鳥原小屋分岐を左へ、ブナ林を下り、渡渉で対岸に渡り2つほど小ピークを越え下っていく。弘法水からスギ林を行き吊橋を渡った道路の上が朝日鉱泉。3日間の約40kmに及ぶ長い縦走を終えた。縦走路の小屋は全て避難小屋、ザックの重量が肩や腰にこたえた。天気に恵まれ紅黄葉も今シーズンのクライマックス。360度の展望の稜線歩き、ブナ林に多くのキノコと青や赤の木の葉、思いもよらない高山植物の花にも出会え充実した山行となった。出会った花:ダイモンジソウ、ウメバチソウ、ハクサンイチゲ、イワイチョウ、マツムシソウ、イワカガミ、リンドウ、シヤクナゲ、タカネナデシコ、ミヤマクマバナ他 YAMAP:39.1km、上3,646m/下3,509m、20時間56分

ヒヤリハット 山腹の狭い道で少し転落

森本

今回の朝日連峰縦走の大鳥登山口までは 750 キロメートル離れており、前後泊が必要だった。旅館泊（最高の料理）で体力を拡充できたことが、2泊3日の重いザック背負っての縦走完歩につながった。予約の取りにくいハイシーズに宿泊できた事はCLに大感謝！！

公共交通機関の終点のバス停前の朝日屋旅館に宿泊、翌朝ご主人の運転で小一時間かかる大鳥登山口に向かう。もう1台でご主人の父親も宿泊登山者を乗せている。父親は鶴岡市に合併前の山形県朝日村最後の村長で、3連休前の今日から大鳥小屋番として勤められるとのこと。私たちが今日（10/11）宿泊予定の以東小屋番さんも登山口から出発された。翌日宿泊した大朝日小屋の小屋番さんたちの連携があり、込み合う小屋泊をまずまず快適に過ごすことが出来た。

紅葉の3連休が年に数回あるかという好天に恵まれたが、夏の猛暑で葉が縮んだり枯れたりしているのが見受けられた。地元の人の「縦走路は逃げ場がないから、今年の夏は朝日連峰を訪れる登山客は少なかった。」も気になった。地球温暖化で夏山登山は変化がありそうだ。

藪

朝日連峰縦走登山に参加するにあたって、不安なことが二つありました。

一つ目は、約14kgのザックの重さ

二つ目は、避難小屋泊（二つとも初挑戦）

1日目、登山開始から2時間ほど歩いたときに、ザックの重さに負けてバランスが取れなくなり、滑落!? 1~2mずり落ちてしまいました。早くも洗礼を受けることに・・・

でもこの時の感覚が残り、結果的にそれがこの後の安全な山歩きにつながりました。

その後2時間ばかり登り続けたころには、足が前に出てくれなくなり、「ここでリタイヤか、ウッ…」と思うくらい不安になりました。CLさんがすぐに休憩をとってくださり、いわゆる『シャリバテ』状態だったようで、昼食を食べると復活しました。ザックの重さも、いつもより早くばてる要因だったようです。“食事と水の摂り方”の大切さを身にしみて感じました。

そんなこんなで、1日目の避難小屋に着いたときには、本当にほっとしました。

小屋から見える大朝日岳に続く大縦走路は壮大で、明日その道を歩けると思うとわくわくしてきました。

心配していた避難小屋泊は、管理人さんが在駐でトイレも完備されていて、快適でした。以東岳で二百名山の達成をされた方がいて、小屋で一緒に祝杯を挙げさせていただけたことは、感激でした。ぜひ、あやかりたいです！

2日目、鳥海山や月山などを望むこともでき、紅葉に覆われた山肌はとても美しく、錦の中に入り込んだような気分で歩くことができました。また、時折、咲き遅れた夏の高山植物が顔を見せてくれ、疲れを癒してくれました。この日の避難小屋は大人気で、さらに一年で1番混雑する日とのことで、無事に宿泊できるか心配しながら向かいましたが、SLさんの計らいで寝るスペースを確保していただいたこと、本当に感謝です。

CLさん、SLさん、同行のみなさまには、いろいろご心配とご迷惑をおかけしたことと思います。折に触れアドバイスをいただきありがとうございます。本当に実りのある山行でした。この上ない晴天に恵まれ、紅葉の天空回廊を満喫できましたこと、感謝いたします。

松嶋

避難小屋2泊のロングトレイルで、なかなか簡単には行けない縦走コースを秋の素晴らしく良いお天気の中、歩き通すことが出来ました。紅葉も頂上付近が丁度、見頃でした。と言っても近年、他の所と同様に天候不順のためか、色鮮やかさは今一つな感じではありましたが。

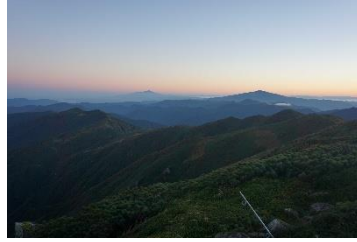
遠いですがアルプスのように観光地化されておらず、人も少なめで、アルプスとは一味違う、静かな東北の山が好きになりました。

前泊、後泊もこのコースでは定番の宿だと思いますが、どちらも風情があり、泊まる事が出来て良い思い出になりました。(カメムシ大発生には参りましたが。笑)

希有な企画をしていただいたHさん、先頭でペースメーカー&ムードメーカーのMさん、先に避難小屋の場所取りをしていただいたTさん、紅一点、Yさんはまさかアレがそんなに強いとは、笑。皆様のお陰で充実した楽しい5日間をありがとうございました。



以東岳より見る、
幻の巨大魚タキタロウが住む
と言われる大鳥池と紅葉



鳥海山(左奥)と月山(右手前)



朝日岳に続く稜線



朝日岳山頂にて



各自、工夫を凝らした楽しい夕食の時間

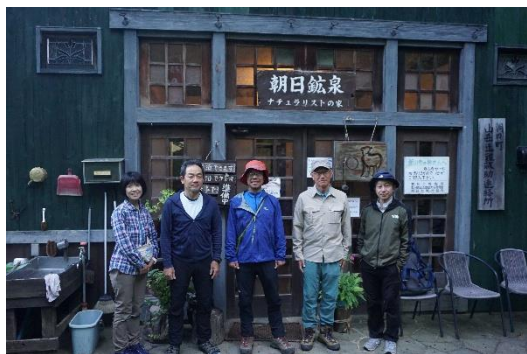


雲海の向こうの峰々が目指す朝日岳



無事下山。朝日鉱泉の宿で祝杯！🍷

ロングトレイルお疲れ様でした！



朝日鉱泉の宿の前で記念撮影



堂々とした山容の大朝日岳